

こうつうあんぜんだより(秋季号)

平成29年9月

長い夏休みも終わり、2学期が始まりました。元気に夏を乗り切った子ども達、一回りも二回りも成長したのではないのでしょうか。

これからは夕暮れが早くなっていきます。薄暮時は交通事故が多発する危険な時間帯です。学校や園、ご家庭でより一層の注意を呼びかけていただきたいと思います。



秋の全国交通安全運動が実施されます



— 9月30日(土)は[交通事故ゼロを目指す日]です —

◆運動の重点

1 子どもと高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止

- 交通事故による死者の半数が高齢者です。
- 幼児や児童は通園・通学時に事故に多くあっていることが報告されています。
- 高齢運転者による死亡事故も多く発生しています。



2 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

- 夜間はライトは必ず点灯しましょう。
- 反射材を活用しましょう。



3 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

- シートベルトはどこに座っても必ず着用しましょう。(チャイルドシートは国の安全基準に適合したのを選びましょう)



4 飲酒運転の根絶

- お酒を飲んだら絶対に運転しません。(乗らない・乗せない・飲ませないを守りましょう)



知っておきたい子どもの特性

子どもを交通事故から守るためには、思いもかけない行動をとってしまう子どもの特性を、保護者が十分理解した上で指導することが大切です。

1 一つのものに注意が向くと、まわりのものが目に入らなくなる。

道路上で遊びに夢中になっているときや、道路の向こう側から親や友だちが声をかけた時などには、進行してくる車に注意を向けず走りだします。



2 ものごとを単純にしか理解できない。

信号が青に変わると、車が止まってくれるものと思いきり、交差点を通り抜けようとする車があることなどは頭がなく、一目散に走り出します。



3 抽象的な言葉だけではよく理解できない。

「危ないよ!」とか「注意なさい!」というような言葉だけでは、子どもはどうすれば安全なのか、具体的な行動と結びつけて理解することはできません。



4 大人のまねをする。

子どもは、周囲の状況について判断する能力がありません。大人や年長者の行動を見て、子どもはすぐにまねをします。



5 応用的動作ができない。

子どもは、いつも通る道路では交通ルールを守ることができても、別の道路ではそれを応用して守ることができるとは限りません。



6 物かげで遊ぶ傾向がある。

子どもには、ちょっとした物かげで遊びたがる傾向があります。平気で車のまわりで遊び、それが危険であることがわかりません。



今後ともよろしく
お願いします

熊本市 生活安全課
電話 096-328-2397

